

作成日 2013年9月1日

改訂日 2019年4月1日

安全データシート（混合物用）

1. 製品および会社情報

製品名	SSSボンド#700主剤 通年用		
会社名	ヤブ原産業株式会社		
住所	〒334-0054 埼玉県川口市安行北谷 546		
担当部署	販売営業部		
作成者	技術部		
電話番号	048-297-4111	FAX番号	048-290-1198
緊急連絡先	048-297-4111		
製品の種類	建築補修用注入エポキシ樹脂主剤		
推奨用途及び使用上の制限	モルタル浮きの注入補修		
整理番号	120112R		

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分4
健康に対する有害性	急性毒性 経口	区分外
	経皮	分類できない
	吸入：ガス	分類対象外
	：蒸気	分類できない
	：粉塵、ミスト	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	授乳に対する、または授乳を介した影響に関する追加区分	分類できない
特定標的臓器／全身毒性（単回ばく露）	区分2（腎臓）	
特定標的臓器／全身毒性（反復ばく露）	区分2（肝臓、副腎）	
吸引性呼吸器有害性	分類できない	
環境に対する有害性	水生環境有害性（急性）	区分1
	水生環境有害性（慢性）	区分1
	オゾン層有害性	分類できない

※上記以外は区分外、分類対象外または分類できない。

ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

警告
可燃性液体
皮膚刺激
眼刺激

注意書き

アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
臓器（腎臓）の障害のおそれ
長期にわたる、または反復ばく露による臓器（肝臓、副腎）の障害のおそれ
水生生物に非常に強い毒性
長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

【安全対策】

適切な保護手袋／保護眼鏡／保護マスク／保護面／保護衣を着用すること。
粉じん／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。
熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
取扱い後は、よく手や顔、眼等を洗うこと。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

火災の場合：消火するために二酸化炭素、泡、粉末消火器を使用すること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。
ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
漏出物を回収すること。

【保管】

容器を密閉して、涼しく換気の良い場所で、施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物
物質の特定 成分および含有量

化学名	化審法番号	CAS 番号	含有量(%)	備考
ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂	(7)-1283	25068-38-6	50～60	
ビスフェノールF型液状エポキシ樹脂	(7)-1285	9003-36-5	12～16	
反応性希釈剤			15～25	
非反応性希釈剤			3～7	
シリカ（非晶質）	(1)-548	112945-52-5	1～5	
添加剤			< 1	

4. 応急措置

吸入した場合：蒸気、ガス等を吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。

- 皮膚に付着した場合 : 付着物を布にて素早く拭き取る。
直ちに、汚染された衣類をとりのぞくこと。
大量の水および石鹼または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。
外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。
- 眼に入った場合 : 直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
まぶたの裏まで完全に洗うこと。
直ちに医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合 : 誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
嘔吐物は飲み込ませないこと。
医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

5. 火災時の措置

- 消化剤 : 炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂、霧状の水、耐アルコール性泡消火剤
- 使ってはならない消火剤 : 棒状の水
- 特有の危険有害性 : 火災時にアクロレイン、一酸化炭素、塩素ガスを発生する可能性がある。(アクロレインは吸入すると肺気腫が起こりうり、また眼刺激性を有する)
- 特有の消化方法 : 消火活動は風上より行う。
移動可能な可燃性容器は安全な場所へ移す。
周囲の可燃物設備を散水して冷却する。
指定の消化剤を使用すること。
- 消化を行う者の保護 : 適切な保護具(耐熱性着衣、耐熱性手袋、防災面、自給式呼吸器など)を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置 : 作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用し、風上から作業する。
周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
付近の着火源・高温体および付近の可燃物をすばやく取り除く。
着火した場合に備えて、適切な消化器を準備する。
- 環境に対する注意事項 : 河川への排出等により、環境への影響を起ささないように注意する。
側溝、下水、河川に流出しないように注意する。
- 封じ込めおよび浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
漏出物を取り扱うとき用いるすべての設備は設置する。
少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
吸収したものを集めるとき、きれいな帯電防止器具を用いる。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
- 二次災害の防止策 : すべての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流出を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 換気の良い場所で取り扱う。
容器はその都度密栓する。
周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。
工具は火花防止方のものを使用する。

使用済ウエス等は廃棄するまで水につけておく。
密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。
皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、目に入らないよう保護具を着用する。
取り扱い後は手・顔等をよく洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。
屋内作業の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備とすること。
過去に、アレルギー症状を経験している人は取り扱わない。

注意事項	: 静電気対策のため、装置は接地し、電気機器類は防爆型（安全増型）を使用する。
保管	
技術的対策および 保管条件	: 日光の直射を避ける。 通風のよいところに保管する。 火気、熱源から遠ざけて保管する。 盗難防止のために施錠保管する。
注意事項	: 強酸化剤、強酸、強アルカリとの接触は避ける。また過剰のアミン等の硬化剤との接触は避ける。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
許容濃度（ACGIH）	: 設定されていない
設備対策	: 取り扱い設備は防爆型を使用する。 液体の輸送、汲み取り、攪拌などの装置についてはアースを取るように設備する。 取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれられないような設備とすること。 屋内作業の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備にすること。 タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付けること。 取扱い場所の近くには洗眼器、シャワーを設置する。

保護具

呼吸器用の保護具	: 有機ガス用防毒マスクを着用する。 密閉された場所では送気マスクを着用する。
手の保護具	: 有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
目の保護具	: 取り扱いには保護メガネを着用すること。
皮膚及び身体の保護具	: 取り扱う場合には、皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

9. 物理的および化学的性質

状態	: ペースト状
色	: 白色
臭い	: わずかな臭気
引火点	: 75℃
比重	: 1.10～1.20（20℃）
粘度	: 7,000～16,000 mPa・s（20℃）
水に対する溶解性	: 不溶
n-オクタノール／水分配係数	: データなし

10. 安定性および反応性

安定性	: 常温・常圧で安定、単独では危険な反応はしない。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤、強酸、アミン類、強アルカリと反応する。

エポキシ樹脂用硬化剤（アミン類、酸無水物類等）と反応する。
 過剰の硬化剤（特にアミン類）と激しく反応し発熱する。

避けるべき条件 : 高温多湿。

混触危険物質 : 強酸化剤、強酸、強アルカリ類、アミン類、酸無水物類との接触は避ける。特に脂肪族アミンなどの硬化剤との接触は避ける。

危険有害な分解生成物 : 燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素、酸化窒素類等を発生する。

1 1. 有害性情報

急性毒性 経口 : ビスフェノールF型エポキシ樹脂 (LD50 ラット >2,000mg/kg)、
 ビスフェノールA型エポキシ樹脂 (LD50 ラット 11,400 mg/kg)
 区分外

経皮 : 分類できない

吸入 (蒸気) : 分類できない

吸入 (粉塵、ミスト) : 分類できない

皮膚腐食性・刺激性 : ビスフェノールA型エポキシ樹脂 区分2

眼に対する重篤な損傷・刺激性 : ビスフェノールA型エポキシ樹脂 区分2B

呼吸器感作性または皮膚感作性 : ビスフェノールA型エポキシ樹脂 区分1皮膚

生殖細胞変異原性 : 分類できない

発がん性 : 分類できない

生殖毒性 : 分類できない

特定標的臓器・全身毒性－単回暴露 : 非反応性希釈剤 区分2 (腎臓)

特定標的臓器・全身毒性－反復暴露 : 非反応性希釈剤 区分2 (肝臓、副腎)

吸引性呼吸器有毒性 : 分類できない

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性 (急性) : ビスフェノールA型エポキシ樹脂 (EC50(48H) 甲殻類 1.7mg/L) 区分1
 (慢性) : ビスフェノールA型エポキシ樹脂 区分1

生態毒性 : 情報なし

残留性・分解性 : 情報なし

生態蓄積性 : 情報なし

土壤中の移動性 : 情報なし

オゾン層への有害性 : 情報なし

- ・漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。
- ・特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約（マニフェスト）をして処理をする。
 容器、機器等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
 排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理および清掃に関する法律および関係する法規にしたがって処理を行うか、委託をすること。

汚染容器および包装 : 空容器は内容物を完全に除去してから処分する。
 許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

1 4. 輸送上の注意

共通
 取り扱いおよび保管上の注意の項の記載に従うこと。
 容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

国内規定

陸上規制情報 : 消防法、労働安全衛生法等に定められた運送方法に従うこと。
海上規制情報 : 船舶安全法に定めるところに従うこと。
航空規制情報 : 航空法に定めるところに従うこと。
国連番号 : 3082
品名 : 環境有害性物質 (液体)
国連分類 : 9
容器等級 : III
指針番号 : 171

国際規制

海上規制情報 : IMOの規定に従う。
航空規制情報 : ICAO/IATAの規定に従う。
UN No. : 3082
Proper Shipping Name : ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N. O. S
Class : 9
Packing Group : III

15. 適用法令

化審法 : 優先評価化学物質 (4,4'-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2,3-エポキシプロパンの重縮合物 (別名ビスフェノールA型エポキシ樹脂))
消防法 : 第4類第三石油類 (非水溶性液体) 危険等級III
労働基準法 : 疾病化学物質 (ビスフェノールA型エポキシ樹脂、ビスフェノールF型エポキシ樹脂)
感作性を有するもの (ビスフェノールA型エポキシ樹脂、ビスフェノールF型エポキシ樹脂)
労働安全衛生法 : 名称等を表示または通知すべき危険物および有害物 (シリカ)
変異原性が認められた既存化学物質 (ビスフェノールA型エポキシ樹脂中間体、メチレンビスフェノール型エポキシ樹脂中間体)
化学物質管理促進法 : 非該当
輸出貿易管理令 : キャッチオール規制対象品

16. その他の情報

参考文献

- ・ GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック [混合物 (塗料用)] (日本塗料工業会)
- ・ SDS用物質データベース (日本塗料工業会)
- ・ 国際化学物質安全カード (ICSC)
- ・ エポキシ樹脂技術協会編「エポキシ樹脂・硬化剤正しい取扱いの手引き」
- ・ 原料SDS

注意

本データシートは、作成または改訂時において、製品およびその組成に関する最新の情報 (危険有害性情報・取扱い情報等) を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には追加・修正を行い改訂いたします。

また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。

本製品を当社が認めた材料以外のものとの混合、当社が認めた仕様以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行ってください。

作成日 2013年9月1日

改訂日 2019年4月1日

安全データシート（混合物用）

1. 製品および会社情報

製品名	SSSボンド#700硬化剤 通年用		
会社名	ヤブ原産業株式会社		
住所	〒334-0054 埼玉県川口市安行北谷 546		
担当部署	販売営業部		
作成者	技術部		
電話番号	048-297-4111	FAX番号	048-290-1198
緊急連絡先	048-297-4111		
製品の種類	建築補修用注入エポキシ樹脂硬化剤		
推奨用途及び使用上の制限	モルタル浮きの注入補修		
整理番号	120112H		

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性	急性毒性 経口	区分4
	経皮	区分外
	吸入：ガス	分類対象外
	：蒸気	分類できない
	：粉塵、ミスト	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	区分1
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分1
	呼吸器感受性	区分1
	皮膚感受性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分1
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分1
	授乳に対する、または授乳を介した影響に関する追加区分	分類できない
特定標的臓器／全身毒性（単回ばく露）	区分1（呼吸器、心血管系、腎臓、神経系）	
特定標的臓器／全身毒性（反復ばく露）	区分1（心血管系、肝臓、消化管血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系）	
環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境有害性（急性）	区分2
	水生環境有害性（慢性）	区分2

※上記以外は区分外、分類対象外か分類できない

ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲み込むと有害

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
重篤な眼の損傷
吸入するとアレルギー、喘息、呼吸困難を起こすおそれ
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
遺伝性疾患のおそれ
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
臓器（呼吸器、心血管系、腎臓、神経系）の障害
長期にわたるまたは反復ばく露による臓器（心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系）の障害
水生生物に毒性
長期継続的影響により水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
適切な保護手袋／保護眼鏡／保護マスク／保護面／保護衣を着用すること。
粉じん／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
取扱い後は、よく手や顔、眼等を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

火災の場合：消化するために二酸化炭素、泡、粉末消火器を使用すること。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。
皮膚（または髪）に付着した場合、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激または発疹が生じた場合、医師の診断／手当てを受けること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合、気分が悪い時は医師に連絡すること。口をすすぐこと。
無理に吐かせないこと。
暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断／手当てを受けること。
漏出物を回収すること。

【保管】

容器を密閉して、涼しく換気の良い場所で、施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合物

主成分 : 変性脂肪族ポリアミン

物質の特定 成分および含有量

物質名	化審法番号	CASNo.	含有量 (%)	備考
変性脂肪族ポリアミン (4-ジ-tert-ブチルフェノールを含む)	— (3)-521	— (96-76-4)	25～35 (5～9)	
ポリアミドアミン (テトラエチレンペンタミンを含む)	— (2)-162	— (112-57-2)	50～60 (4～8)	
変性ポリアミドアミン (テトラエチレンペンタミンを含む)	— (2)-162	— (112-57-2)	2～4 (<0.003)	
三級アミン	—	—	2～6	
メタキシリレンジアミン	(3)-308	1477-55-0	1～3	
フェノール	(3)-481	108-95-2	<1	
シリカ	—	—	2～6	

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 蒸気、ガス等を吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 付着物を布にて素早く拭き取る。
直ちに、汚染された衣類をとりのぞくこと。
大量の水および石鹸または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。
外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。
- 眼に入った場合 : 直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
まぶたの裏まで完全に洗うこと。
直ちに医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合 : 誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
嘔吐物は飲み込ませないこと。
医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者は保護手袋や保護眼鏡などの保護具を着用し、衣類や手につかないように注意を払うこと。

5. 火災時の措置

- 消化剤 : 炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂、霧状の水、耐アルコール性泡消火剤
- 使ってはならない消火剤 : 棒状の水
- 特有の危険有害性 : 火災時に一酸化炭素を発生する可能性がある。
- 特有の消化方法 : 消火活動は風上より行う。
移動可能な可燃性容器は安全な場所へ移す。
周囲の可燃物設備を散水して冷却する。
指定の消化剤を使用すること。
- 消化を行う者の保護 : 適切な保護具（耐熱性着衣、耐熱性手袋、防災面、自給式呼吸器など）を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置 : 作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用し、風上から作業する。
周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。

環境に対する注意事項	: 付近の着火源・高温体および付近の可燃物をすばやく取り除く。 着火した場合に備えて、適切な消化器を準備する。 : 河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。 側溝、下水、河川に流出しないように注意する。
封じ込めおよび浄化の方法・機材	: 危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取り扱うとき用いるすべての設備は設置する。 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。 吸収したものを集めるとき、きれいな帯電防止器具を用いる。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
二次災害の防止策	: すべての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流出を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 換気の良い場所で取り扱う。 容器はその都度密栓する。 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。 作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。 工具は火花防止方のものを使用する。 使用済ウエス等は廃棄するまで水につけておく。 密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。 皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、目に入らないよう保護具を着用する。 取り扱い後は手・顔等をよく洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。 屋内作業の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備とすること。 過去に、アレルギー症状を経験している人は取り扱いわない。
注意事項	: 静電気対策のため、装置は接地し、電気機器類は防爆型（安全増型）を使用する。
保管	
技術的対策および保管条件	: 日光の直射を避ける。 通風のよいところに保管する。 火気、熱源から遠ざけて保管する。 盗難防止のために施錠保管する。 軟鋼、銅、アルミニウム、亜鉛には腐食性があるため、表面処理された鋼板あるいはステンレス容器に保管する。
注意事項	: 強酸化剤、強酸、エポキシ樹脂との接触は避ける。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
許容濃度（ACGIH）	: 設定されていない。 (参考) メタキシリレンジアミン：TLV-STEL C 0.1mg/m ³ (Skin) (ACGIH 1992年度) フェノール：TLV-TWA 5ppm (Skin) (ACGIH 1992年度) 5ppm 19 mg/m ³ (皮) (日本産業衛生学会 1978年度)
設備対策	: 取り扱い設備は防爆型を使用する。 液体の輸送、汲み取り、攪拌などの装置についてはアースを取るよう設備する。 取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれられないような設備とすること。 屋内作業の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等に

より作業者が暴露から避けられるような設備にすること。
タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付けること。
取扱い場所の近くには洗眼器、シャワーを設置する。

保護具

- 呼吸器用の保護具 : 有機ガス用防毒マスクを着用する。
密閉された場所では送気マスクを着用する。
- 手の保護具 : 有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
- 目の保護具 : 取り扱いには保護メガネを着用すること。
- 皮膚及び身体の保護具 : 取り扱い場合には、皮膚を直接曝露させないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

9. 物理的および化学的性質

- 状態 : 液体
- 色 : 淡黄色
- 臭い : アミン臭
- 引火点 : 118℃
- 比重(密度) : 1.10~1.20 (20℃)
- 水に対する溶解性 : わずかに溶解
- 粘度 : 7,000~16,000 mPa·s (20℃)

10. 安定性および反応性

- 化学的安定性 : 通常の条件下では安定であるが、長時間の空気との接触では変質する。
- 危険有害反応可能性 : 強酸化剤、強酸、エポキシ化合物と反応する。
- 避けるべき条件 : 高温多湿。
- 混触危険物質 : 強酸化剤、強酸、エポキシ化合物。
- 危険有害な分解生成物 : 燃焼した時、有害ガス(一酸化炭素、二酸化炭素)を発生する。

11. 有害性情報

- 急性毒性 経口 : 区分4
- 経皮 : 区分外
- 吸入(蒸気) : 分類できない
- 吸入(粉塵、ミスト) : 分類できない
- 皮膚腐食性・刺激性 : 区分1
- 眼に対する重篤な損傷・刺激性 : 区分1
- 呼吸器感作性または皮膚感作性 : 区分1(呼吸器、皮膚)
- 生殖細胞変異原性 : 区分1
- 発がん性 : 分類できない
- 生殖毒性 : 区分1
- 特定標的臓器・全身毒性-単回暴露 : 区分1(呼吸器、心血管系、腎臓、神経系)
- 特定標的臓器・全身毒性-反復暴露 : 区分1(心血管系、肝臓、消化管血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系)
- 吸引性呼吸器有毒性 : 分類できない

12. 環境影響情報

- 水生環境有害性(急性) : 区分2
- (慢性) : 区分2
- 土壌中の移動性 : 情報なし
- オゾン層への有害性 : 情報なし
- ・漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。
 - ・特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約（マニフェスト）をして処理をする。
容器、機器等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理および清掃に関する法律および関係する法規にしたがって処理を行うか、委託をすること。

汚染容器および包装 : 空容器は内容物を完全に除去してから処分する。
許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

1 4. 輸送上の注意

共通

取り扱いおよび保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

国内規定

陸上輸送：消防法、労働安全衛生法等に定められた運送方法に従うこと。
海上輸送：船舶安全法に定めるところに従うこと。
航空輸送：航空法に定めるところに従うこと。
国連番号：2735
品名：ポリアミン類（液体）（腐食性のもの）
国連分類：8
容器等級：III
指針番号：153

国際規制

海上規制情報 : IMOの規定に従う。
航空規制情報 : ICAO/IATAの規定に従う。
UN No. : 2735
Proper shipping Name: POLYAMINES, LIQUID, CORROSIVE, N. O. S
Class : 8
Packing Group : III

1 5. 適用法令

化審法 : 優先評価化学物質（フェノール）
消防法 : 第4類第三石油類（非水溶性液体）危険等級III
労働安全衛生法 : 名称を表示または通知すべき危険物および有害物（フェノール、メタキリレンジアミン、シリカ）
腐食性液体（石炭酸（フェノール））
労働基準法 : 疾病化学物質（フェノール）
労働省労働基準局長通達（基発第477号）：変性脂肪族ポリアミン、ポリアミドアミン、変性ポリアミドアミン、三級アミン
化学物質管理促進法 : 第1種指定化学物質（2,4-ジ-ターシャリ-ブチルフェノール、3,6,9-トリアザウンデカン-1,11-ジアミン（別名テトラエチレンペンタミン））
輸出貿易管理令 : キャッチオール規制対象品

16. その他の情報

参考文献

- 1) GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック〔混合物（塗料用）〕（日本塗料工業会）
- 2) SDS用物質データベース（日本塗料工業会）
- 3) 国際化学物質安全カード（ICSC）
- 4) 既存化学物質安全性点検データ
- 5) 原料SDS

注意

本データシートは、作成または改訂時において、製品およびその組成に関する最新の情報（危険有害性情報・取扱い情報等）を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には追加・修正を行い改訂いたします。

また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。

本製品を当社が認めた材料以外のものとの混合、当社が認めた仕様以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行ってください。